

まちづくりの原点は
人と人との
ふれあいと交流

「20歳代のころは、遊びや仕事のことばかり…。自分の暮らすまちを意識したことはありませんでした」と話す小笠原さん。

「まちを意識し始めたのは、子どもが生まれてからでしょうか。この子が大人になっても、登別が心豊かな地域であるためにはどうしたら良いか、このまちを次の世代にどう引き継いでいくかを真剣に考えるようになりましたね」と自らを振り返ります。

その後、(社)登別青年会議所などで活動を共にした『仲間』との交流を通じ、小笠原さんはまちづくりへの思いを一層深めます。

「まちづくりに大切なことは、人とのつながり。自然に仲間や目標ができ、やる気と元気がわいてきます。人と人とのふれあいと交流がまちづくりの原点と感じます」

自分たちがこのまちをつくっていくという強い意志が必要

「『まちづくり基本条例』は、いわばまちの憲法。市民の意志を反映させるまたとない機会だと思いました」と小笠原さんは、条例への期待を込めて、検討委員会



検討委員会の議論をまとめる小笠原さん

委員に応募した理由を話します。

これまで、市の環境保全審議会や緑化推進協議会などに参加してきた小笠原さんですが、委員長の大役を担ってみたいと思ったことはなかったと言います。

「検討委員会には、自分も含め30歳代の若者が何人もいます。若僧でもやる気があるんだという思いと、検討委員会を活気あふれる雰囲気にしたという気持ちから、委員長に立候補しました。これからは、自分たちがこのまちを動かしていくんだという強い意志が必要で、将来、条文の見直しはあっても、市民主体の熱い議論から生まれた条例の精神は、次の世代がしっかりと受け継いでほしいですね」と力強く語る小笠原さん。未来の登別を創るまちづくりに意欲を燃やしています。



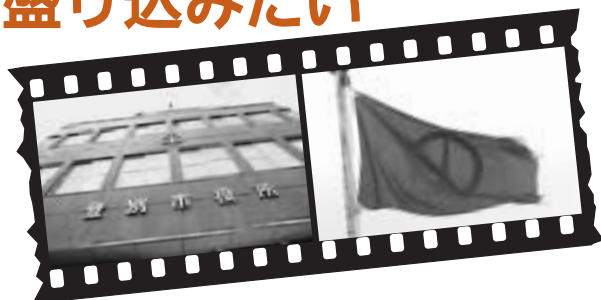
KIRARI

お が さ わ ら は る い ち
小笠原春一さん(中登別町)

市民と行政による協働のまちづくりの基本となる『(仮称)まちづくり基本条例』。この6月、『登別市まちづくり基本条例検討委員会』が設けられ、公募の市民26人と市職員10人が熱心な議論を行っています。

同検討委員会の委員長・小笠原春一さんにまちづくり基本条例やまちづくりへの思いなどを聞きました。

まちづくりへの市民の熱い思いを条例に盛り込みたい



昭和42年、登別市生まれ。36歳。

東京農業大学農学部造園学科を卒業後、登別市に戻り、(株)丸勇小笠原緑化に勤務。(社)登別青年会議所や登別まちづくり促進期成会などに所属し、まちづくり活動に積極的に参加。